

## 令和3年度 子ども文化芸術大学☆ふじみ

### 1 実施体制

子ども文化芸術大学☆ふじみ	学長	星野 光弘（富士見市長）
	副学長	山口 武士（富士見市教育委員会教育長）

### 2 事業内容

開催期間	令和3年10月16日～令和3年12月12日			
参加者数等	定員	30名	応募者数	16名
	参加者数	4年 4名	修了者数	4年 4名
		5年 8名		5年 8名
		6年 4名		6年 4名

### 3 実施内容

1日目	開催日時	10月16日（土） 10：45～13：00	 <p>一人、一人、バイオリンを触って音を出す練習をしました。</p>	
	バイオリン	会場		富士見市立市民総合体育館
		講義名		「バイオリンを弾いてみよう」
		講師		尾崎 杏奈 氏
2日目	開催日時	11月23日（火祝） 9：00～12：00	 <p>各班で先生にアドバイスをもらいながら演劇の台詞を考えました。</p>	
	演劇	会場		富士見市役所第1～3会議室
		講義名		「『台詞』を考えて演劇を創ろう」
		講師		平田 オリザ 氏
3日目	開催日時	12月12日（日） 10：30～12：00	 <p>新聞紙を使い言葉を使わない表現を学びました。</p>	
	ダンス	会場		富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ
		講義名		「からだでなにかを表現しよう！」
		講師		白神 ももこ 氏

#### 4 新型コロナウイルス感染症対策（工夫した点や苦慮した点など）

- ・一部会場を除き、保護者の見学を不可とした。
- ・消毒液を設置し、適宜手指消毒を促した。
- ・各講義の前に健康チェックシートを提出してもらった。
- ・グループワークの際に、机にアクリル板を置き、感染対策をした。しかし、アクリル板越しではうまくコミュニケーションが取れず、話し合いがスムーズにできなかった。

#### 5 参加者の声

参加した子供の声（感想）	<ul style="list-style-type: none"><li>・初めてのことを体験できた</li><li>・貴重な体験をできたから</li><li>・バイオリンなど普段、触れる機会がない楽器に触れることができ、興味が沸いた。</li><li>・コロナの中、さまざまなイベントが中止になり、参加できてよかった。</li><li>・バイオリンの講義が1番心に残った。最初は初めてだったから不安しかなかったけどそれを感じさせないくらいやってみると楽しかった。</li><li>・演技するのが楽しかった。台本を作るのが大変だという事がわかった。</li><li>・みんなでふりを作ったのが楽しかった。新聞をやぶらないようにして歩いたりするのが心に残った。</li></ul>
保護者の声（感想）	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもにはできる限り様々なことを経験させて、視野を広げてあげたいと思っけていても、個人ではなかなか難しく、叶わないことも多々ありますが、この企画に参加したことによって、親でさえ未知の体験を子どもはたくさんできました。近年コロナで色々な催しが中止になり、遠出もままならない中、市内でこのような体験型企画はとても貴重だと思います。</li><li>・普段学校では学べない体験（他学級のお友達と関わるなども）ができて、とても貴重でかけがえのないものになりました。また機会があれば、ぜひ参加したいです。</li><li>・コロナ禍で人との交流が少なくなっているのが学校以外の場で人と出会える場ができてよかったと思います。</li><li>・ダンスがやりたくて参加しましたが、すべての講義を楽しんでいました。同じグループの子と仲良くなれたのもうれしかったです。</li></ul>